

# 2022年3月期 決算説明資料

---

# 目次

---

1. 2022年3月期 決算 P 2
2. 2023年3月期 通期業績予想 P20
3. 重点施策進捗状況 P23

# 2022年3月期決算

---

# 決算ハイライト

## 売上高

55,441百万円  
(前連結会計年度比+ 41.4%)

## 売上総利益

10,309百万円  
(前連結会計年度比+ 54.6%)

## 営業利益

4,256百万円  
(前連結会計年度比+ 114.8%)

## 2022年3月期サマリー

- 好調な市場環境を背景に増収増益を継続し、売上高および利益で過去最高を達成
- 半導体製造装置業界は、5 G 関連等の需要拡大が続いており、設備投資は好調に推移
- 主力のアルミニウムを中心に全品種の販売が好調
- 棚卸資産影響額が610百万円(益)発生、前連結会計年度比566百万円の増益要因
- 東証新市場区分「プライム市場」へ移行
- 株主還元強化の一環で、2022年3月期より中間配当・株主優待を導入

# 連結損益計算書（PL）サマリー

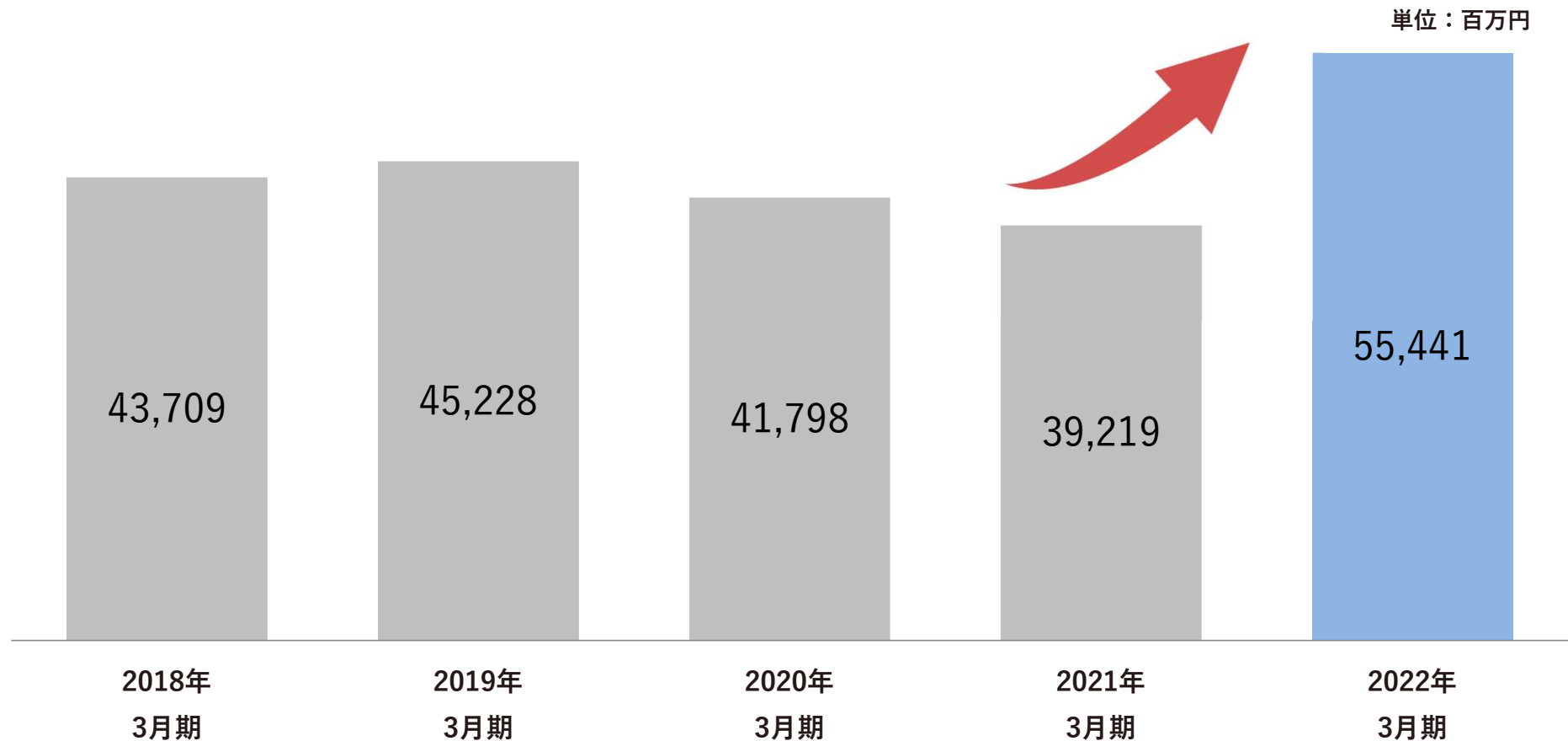
## 半導体製造装置業界向けを筆頭に好調を持続し、 前連結会計年度比で大幅な増収増益を達成

(百万円)	2021/3期	売上高比	2022/3期	売上高比	増減率 (差額)
売上高	39,219	-	55,441	-	+41.4%
売上総利益	6,670	17.0%	10,309	18.6%	+54.6%
営業利益(棚卸資産影響前)	1,938	4.9%	3,645	6.6%	+88.1%
棚卸資産影響額（△は損）	+43	0.1%	+610	1.1%	(+566)
営業利益(棚卸資産影響後)	1,981	5.1%	4,256	7.7%	+114.7%
経常利益	2,083	5.3%	4,373	7.9%	+109.9%
親会社に帰属する 当期純利益	1,281	3.3%	2,964	5.3%	+131.2%

# 直近の売上高推移

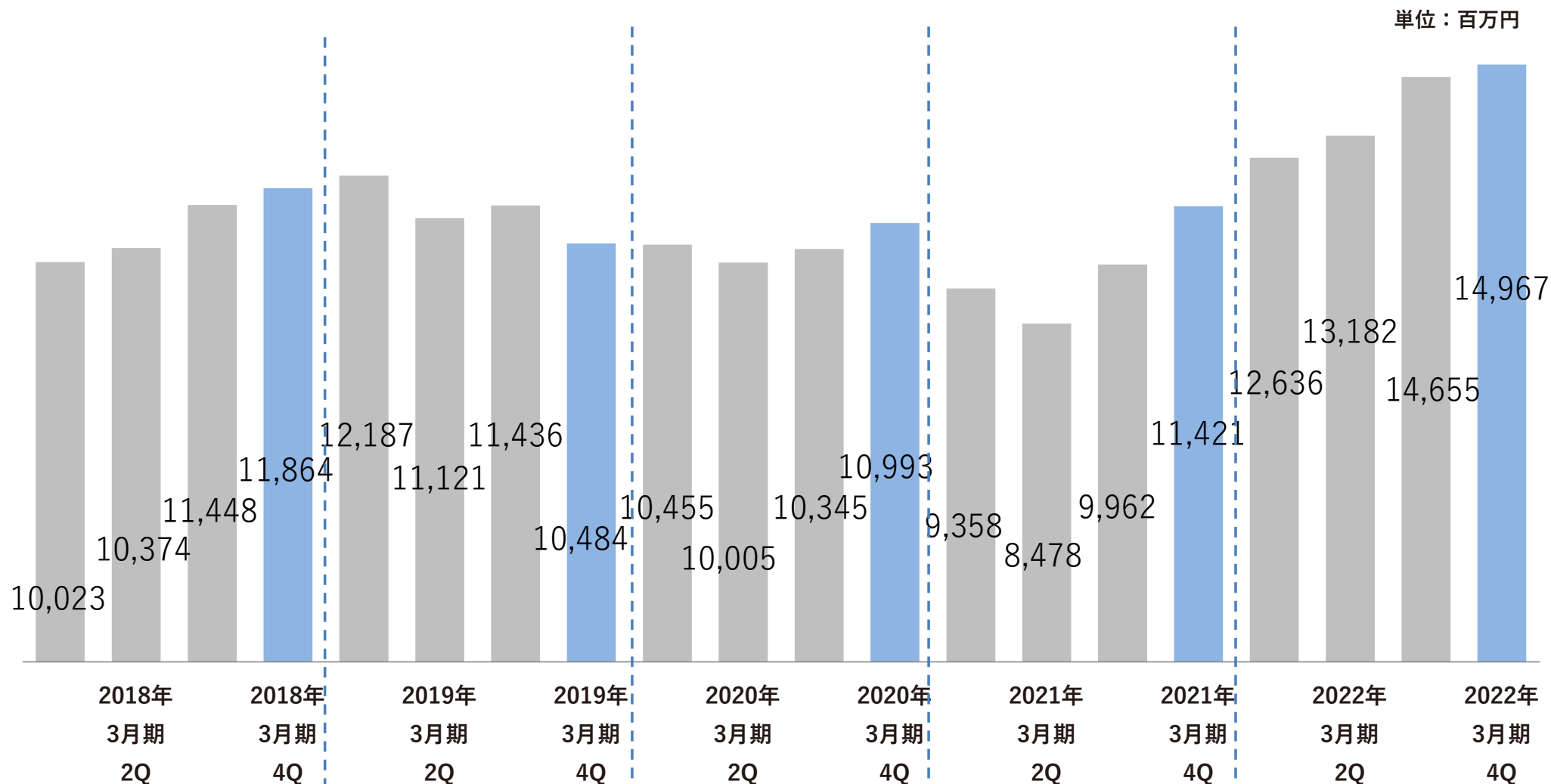
## 前連結会計年度比 41.4% 増加

- ◆ 前連結会計年度は新型コロナウイルス感染症の影響で低迷を余儀なくされたが、  
今期は半導体製造装置業界や工作機械業界の好況等を背景に過去最高の売上高を達成



# 売上高の四半期毎推移

## 2021年3月期 2Qを底としてコロナウイルス感染症の影響から回復、その後続伸

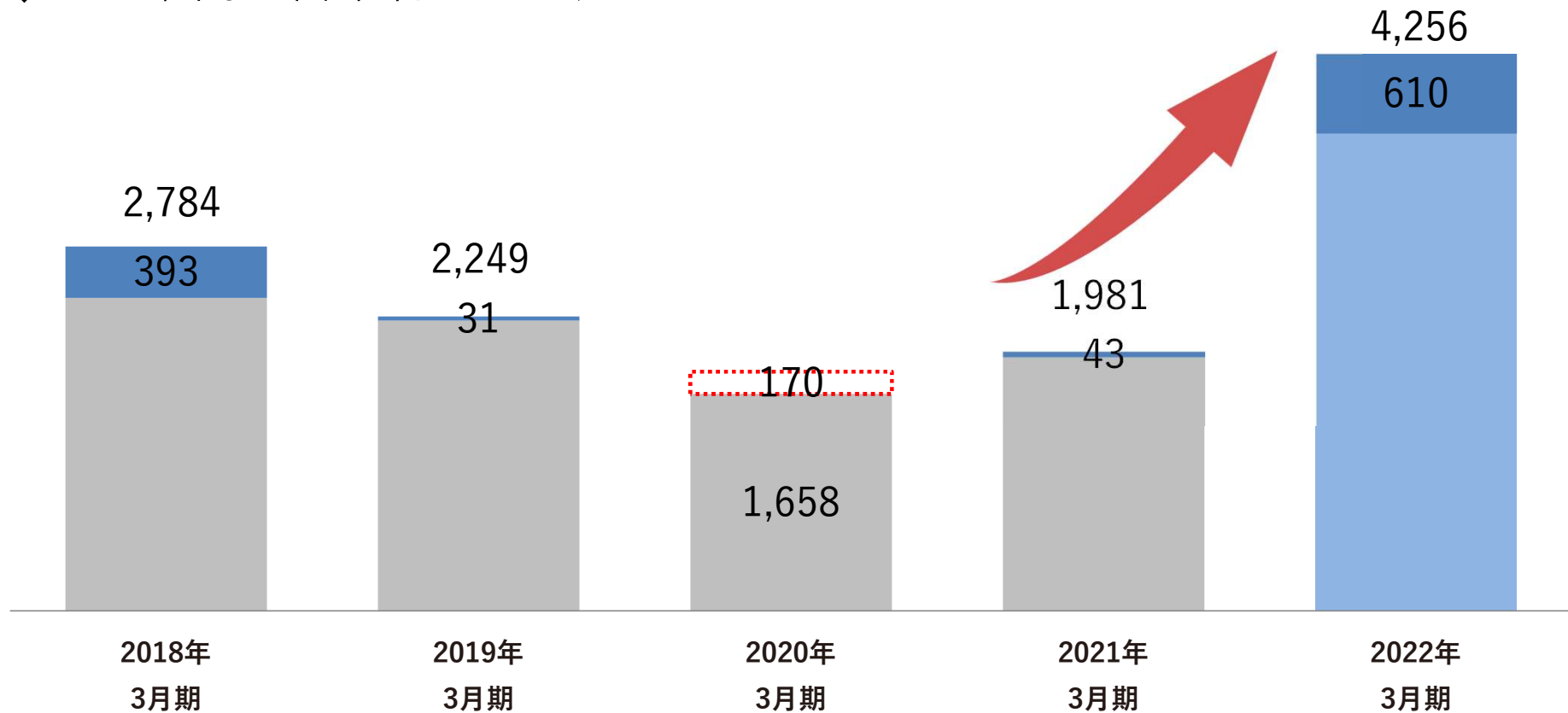


# 直近の営業利益推移

## 前連結会計年度比 114.7% 増加

- ◆売上高の増加と売上原価率低減が利益増の主因
- ◆棚卸資産影響額610百万円も増益に寄与
- ◆過去最高の営業利益を達成

単位：百万円



棚卸資産影響額（益）

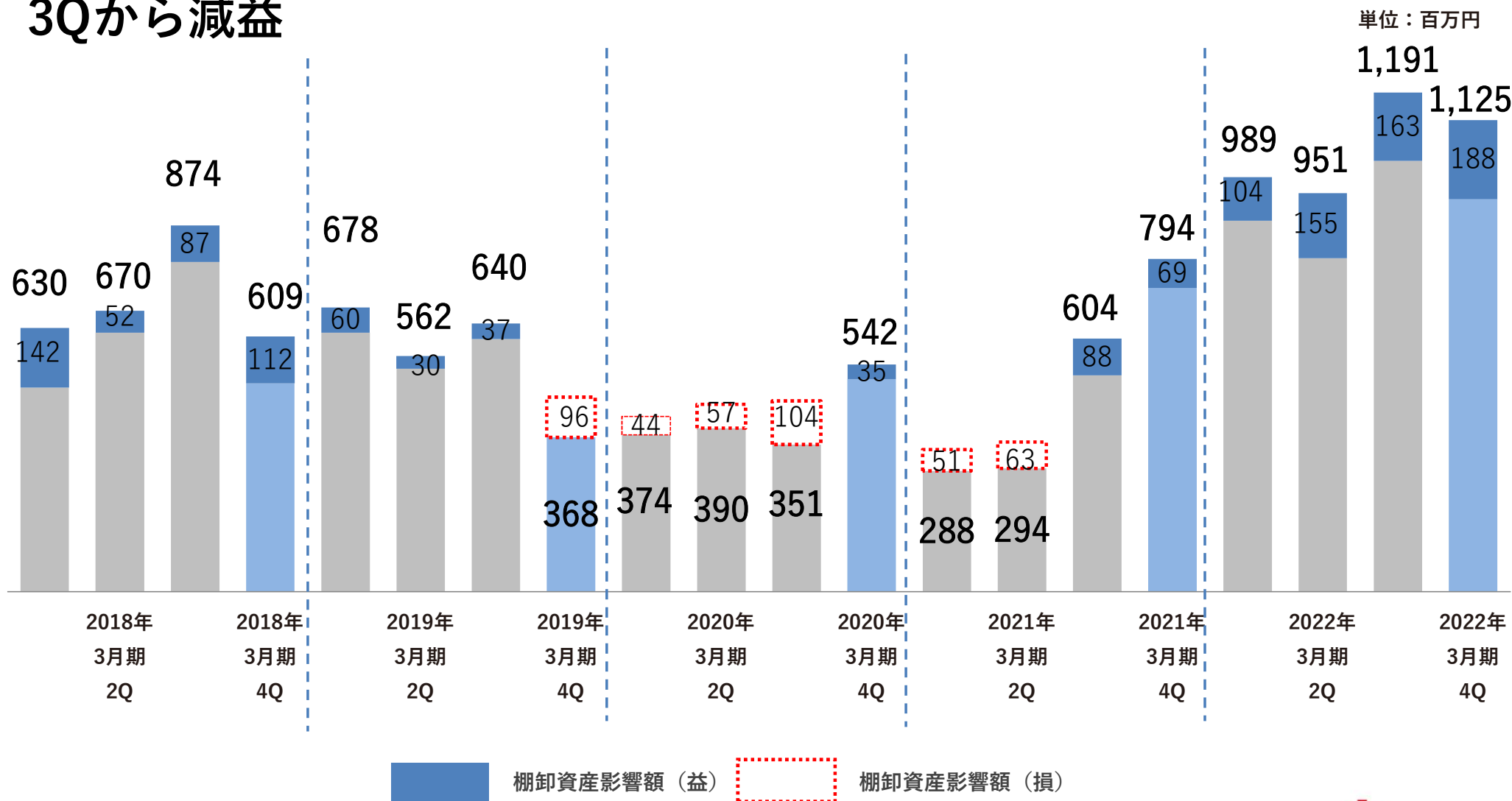


棚卸資産影響額（損）



# 営業利益の四半期毎推移

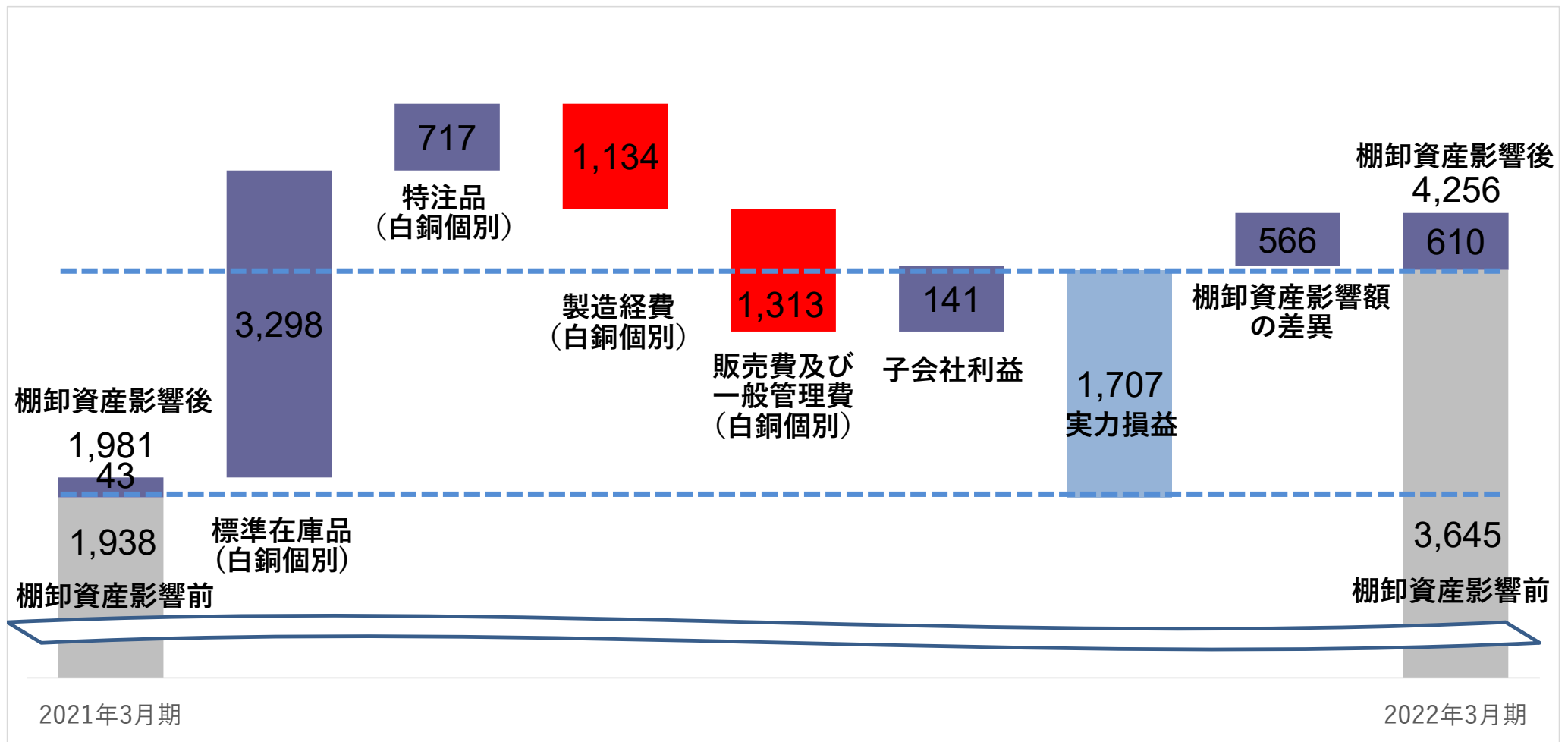
2021年3月期3Q以降、営業利益水準は増加  
 2022年3月期4Qは販売費及び一般管理費の一時的な費用計上により  
 3Qから減益



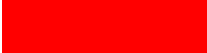
# 営業利益の前連結会計年度差異要因

## 売上高の増加と、原材料市況およびメーカー加工賃上昇による棚卸資産影響額により大幅増益

(単位 百万円)



増加要因



減少要因

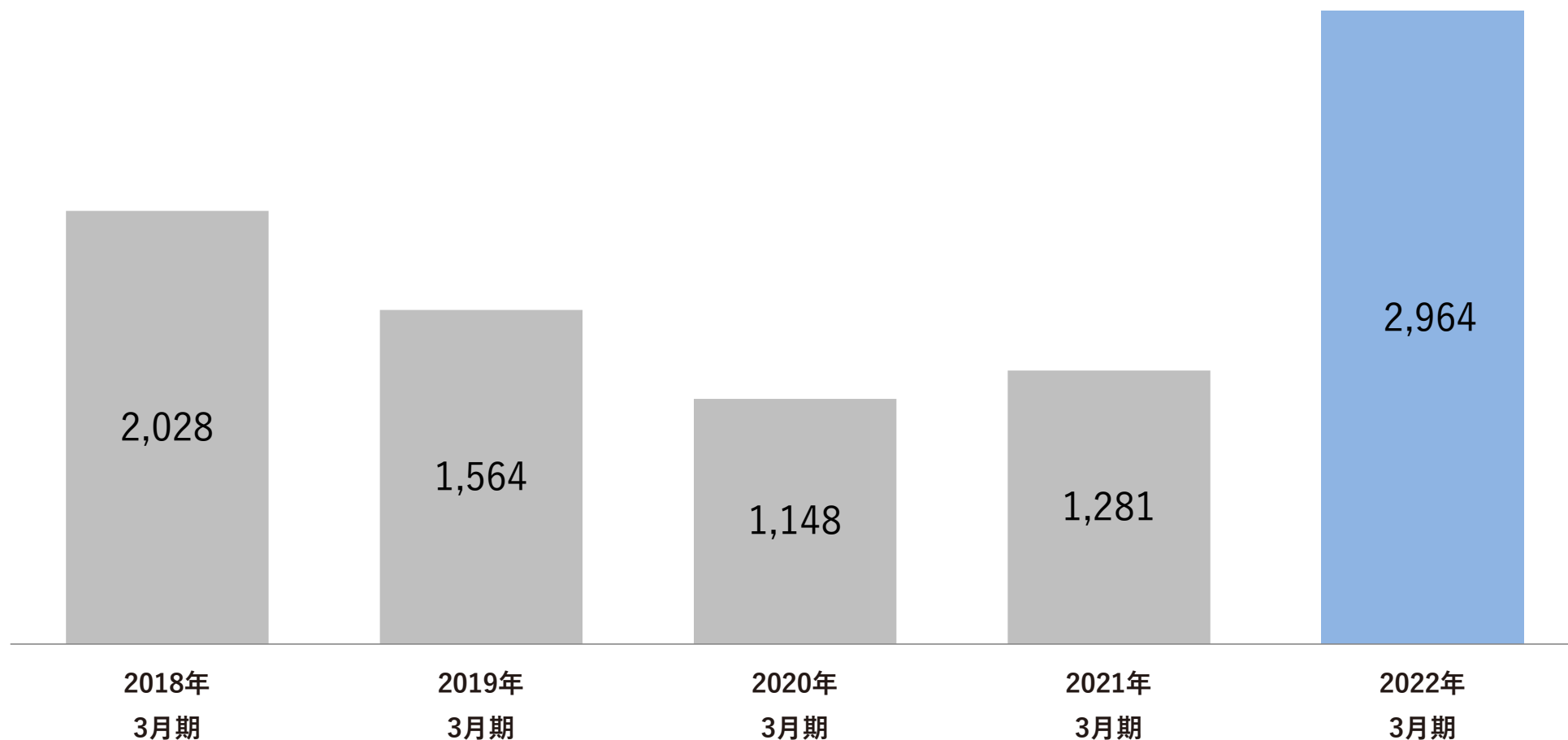
あたらしい、を、素材から。



## 直近の親会社株主に帰属する当期純利益推移

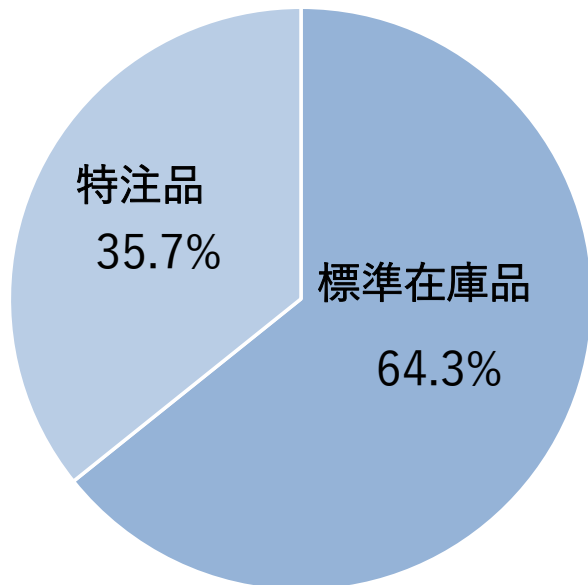
# 親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度比 131.2% 増加

単位：百万円

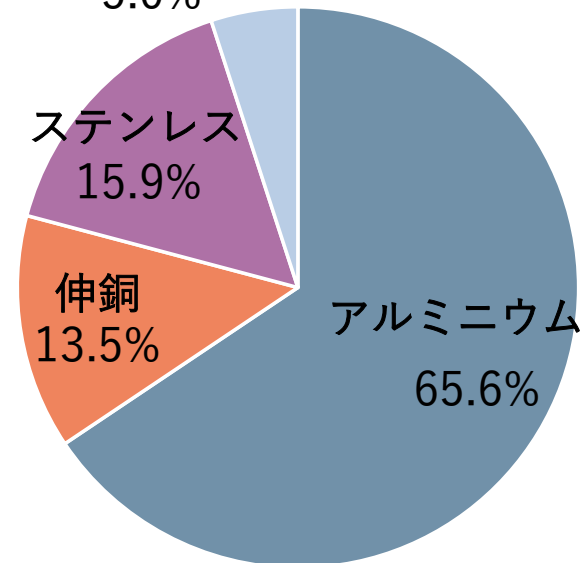


# 売上高の構成

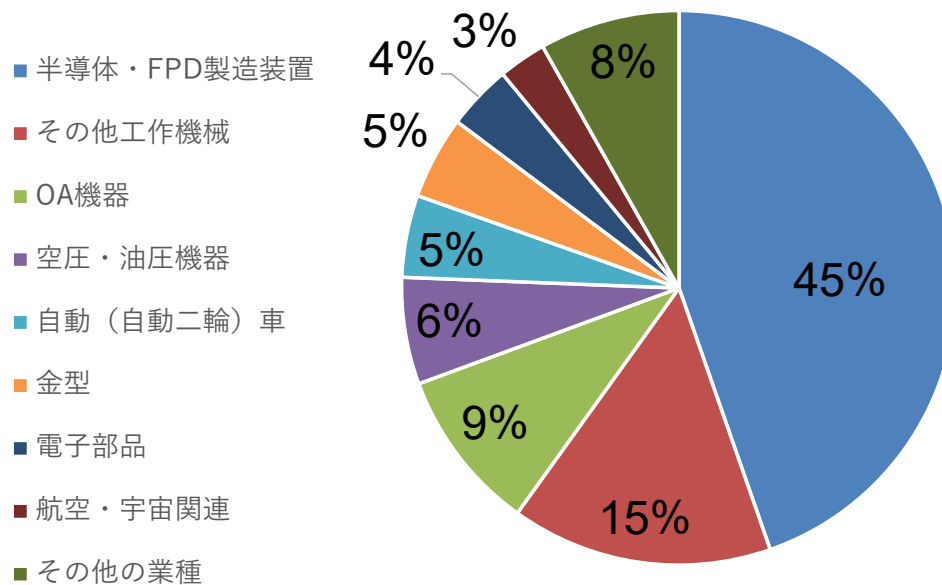
【標準在庫品・特注品別】



【品種別】



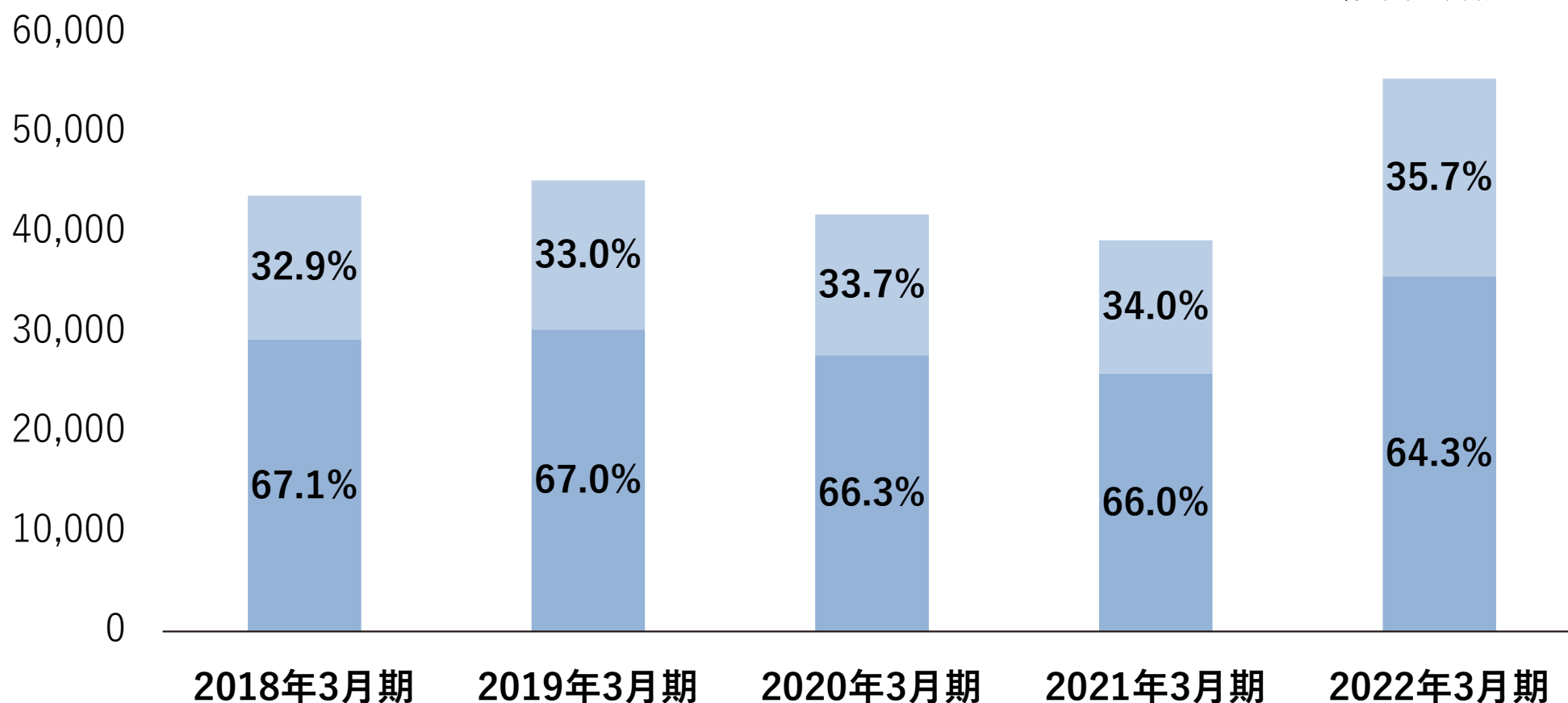
【業種別（国内）】



# 標準在庫品・特注品売上高の構成比率の推移

前連結会計年度と比較して、主に半導体製造装置関連向けの需要増により特注品の比率が増加

(単位：百万円)



# 品種別売上高

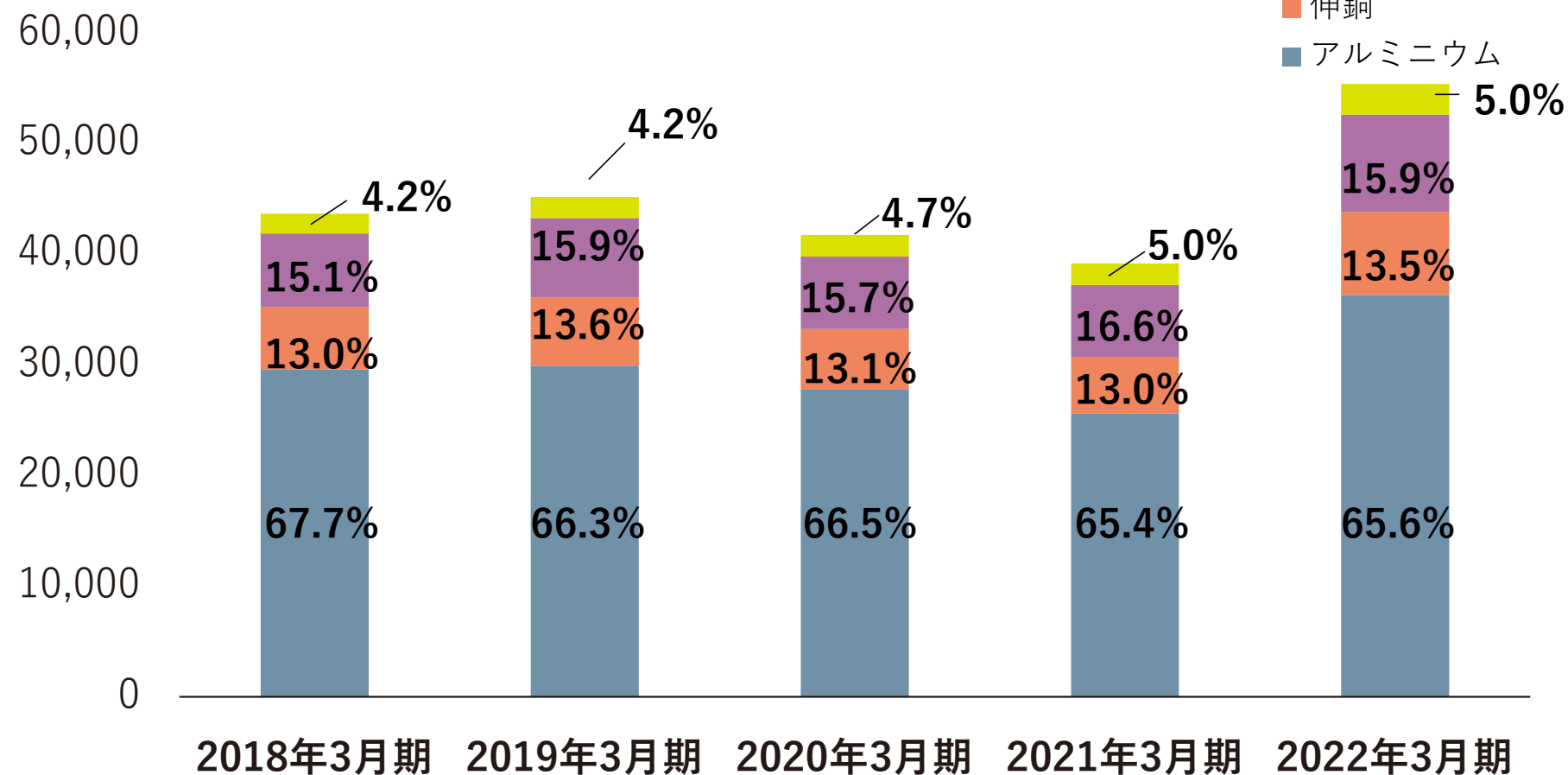
主力のアルミニウムを中心に全ての製品で前連結会計年度比増加

(百万円)	2021/3期 4Q	2021/3期 累計	2022/3期 1Q	2022/3期 2Q	2022/3期 3Q	2022/3期 4Q	2022/3期 累計	対前連結会 計年度 増減率
連結売上高	11,421	39,219	12,636	13,182	14,655	14,967	55,441	+41.4%
アルミニウム	7,458	25,648	8,242	8,654	9,563	9,905	36,365	+41.8%
伸銅	1,496	5,101	1,780	1,766	2,033	1,919	7,499	+47.0%
ステンレス	1,874	6,515	1,991	2,116	2,301	2,385	8,795	+35.0%
その他	590	1,954	621	645	756	756	2,781	+42.3%

# 品種別売上高の構成比率の推移

前連結会計年度と比較し全ての製品の売上高が増加し、伸銅製品の比率が0.5ポイント上昇

(単位：百万円)



# 貸借対照表 (BS)

## < 貸借対照表(前連結会計年度末比) >

単位：百万円

資産の部	2021年3月末	2022年3月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>24,851</b>	<b>33,615</b>	<b>8,764</b>
現金及び預金	5,924	8,674	2,750
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	12,850	17,010	4,160
棚卸資産	5,960	7,802	1,842
その他流動資産	115	127	12
<b>固定資産</b>	<b>8,264</b>	<b>8,164</b>	<b>△100</b>
有形固定資産	6,370	6,097	△273
無形固定資産	402	509	107
投資その他の資産	1,491	1,557	66
<b>資産合計</b>	<b>33,115</b>	<b>41,780</b>	<b>8,665</b>
負債及び純資産の部	2021年3月末	2022年3月末	増減
<b>流動負債</b>	<b>15,189</b>	<b>21,903</b>	<b>6,714</b>
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	13,132	18,652	5,520
未払金・未払費用	956	1,023	67
未払法人税等	469	1,145	676
その他流動負債	631	1,081	450
<b>固定負債</b>	<b>55</b>	<b>48</b>	<b>△7</b>
<b>負債合計</b>	<b>15,245</b>	<b>21,951</b>	<b>6,706</b>
<b>純資産</b>	<b>17,869</b>	<b>19,829</b>	<b>1,960</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>33,115</b>	<b>41,780</b>	<b>8,665</b>

前連結会計年度増減

流動資産+8,764百万円

- 現預金の増加
- 売上高増加による受取手形及び売掛金の増加

固定資産△100百万円

- 有形固定資産の減少（減価償却による）
- 無形固定資産の増加
- 投資その他の資産の増加

流動負債+6,714百万円

- 仕入増加による支払手形及び買掛金の増加
- 未払法人税等の増加

固定負債△7百万円

純資産+1,960百万円



# キャッシュフロー

## 増益による営業CFの増加により現金が増加

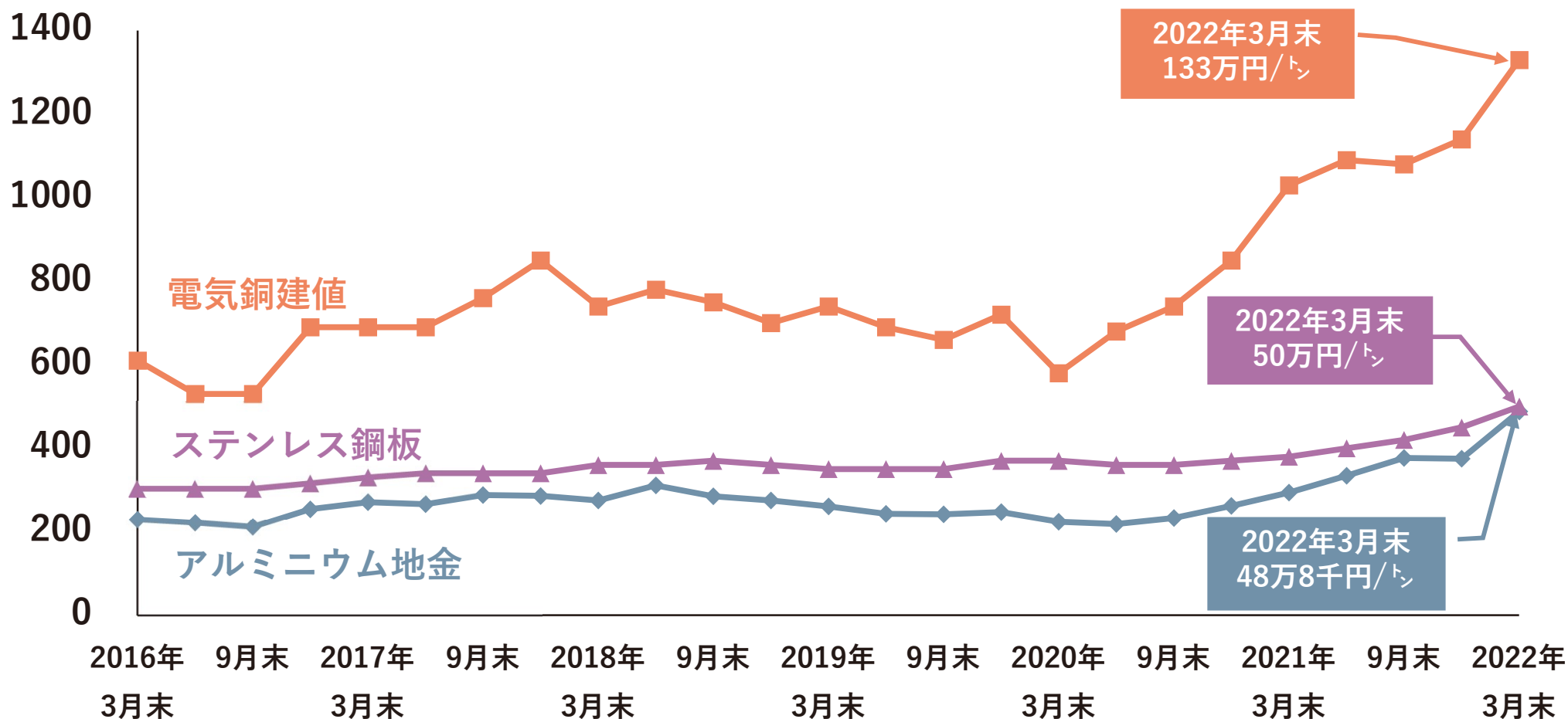
(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	差額
営業活動による キャッシュ・フロー	2,127	4,555	2,487
投資活動による キャッシュ・フロー	△552	△677	△124
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 657	△1,201	△544
現金及び現金同等物 に係る換算差額	38	73	35
現金及び現金同等物 の期末残高	5,924	8,674	2,750

# 事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

## アルミニウム・伸銅・ステンレスの地金価格は高値圏で推移

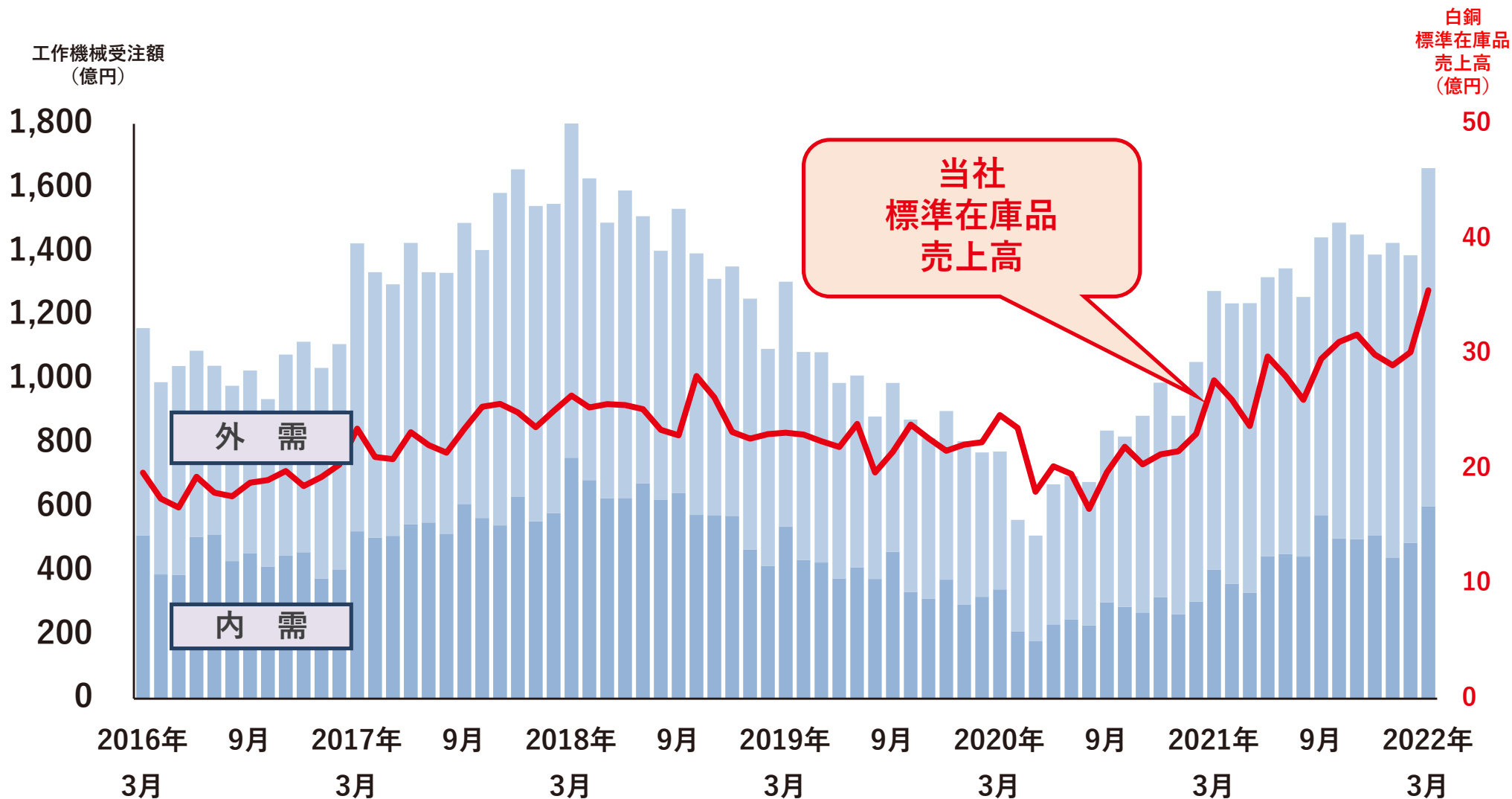
(単位：千円/ト)



ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値  
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

# 事業環境（2） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

## 工作機械受注額は外需を中心に回復傾向



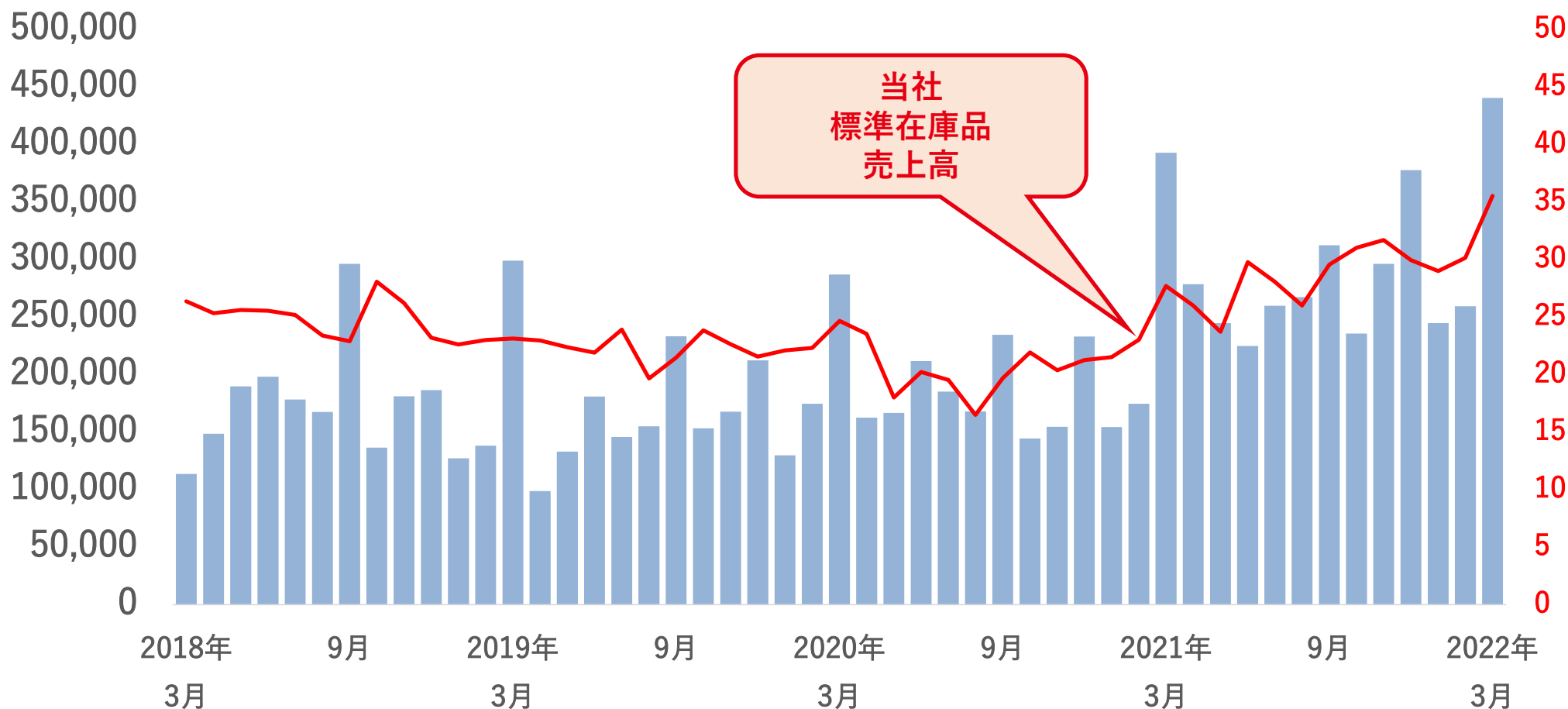
出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

# 事業環境（3） 半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

## 5G関連やデータセンター向けの需要拡大継続が見込まれる

日本製製造装置販売額  
(百万円)

白銅  
標準在庫品  
売上高  
(億円)



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

# 2023年3月期 通期業績予想

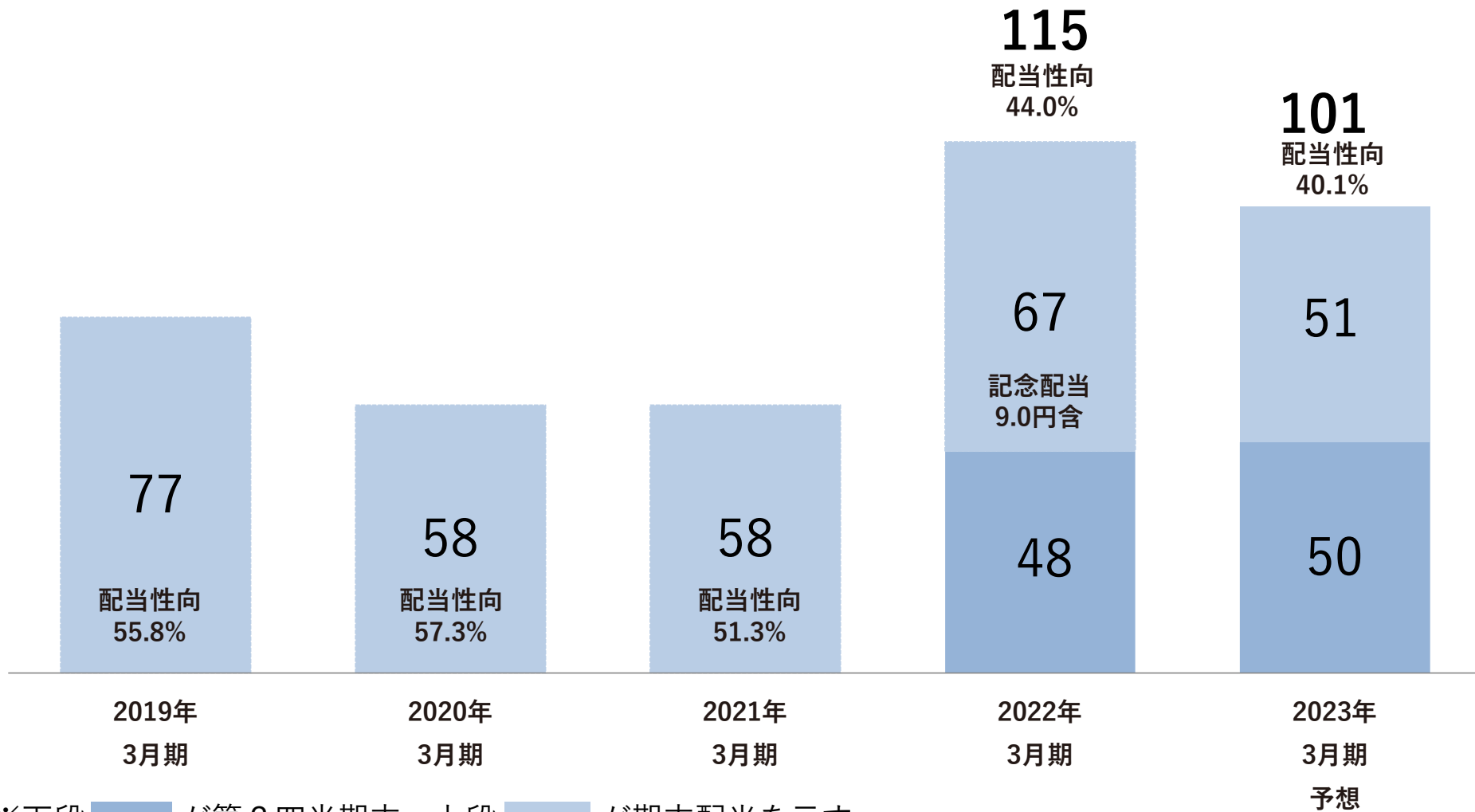
---

## 営業利益（棚卸資産影響前）増益を見込む。

(百万円)	2022/3期 実績	売上高比	2023/3期 通期予想	売上高比	対前期 増減率 (差額)
売上高	55,441	-	<b>62,100</b>	-	+12.0%
営業利益 (棚卸資産影響前)	3,645	6.6%	<b>3,852</b>	6.2%	+5.7%
棚卸資産影響額	+610	1.1%	<b>+118</b>	0.2%	(△492)
営業利益 (棚卸資産影響後)	4,256	7.7%	<b>3,970</b>	6.4%	△6.7%
経常利益	4,373	7.9%	<b>4,080</b>	6.6%	△6.7%
親会社に帰属する 当期純利益	2,964	5.3%	<b>2,860</b>	4.6%	△3.5%

※2023年3月期～2025年3月期の中期経営計画を2022年5月26日発表予定

# 配当予想～1株当たり配当金の推移～



# 重点施策進捗状況

---



# 重点施策進捗状況（1）－1

- (1)ダントツの品質・ダントツのスピード・ダントツのサービス・納得の価格の実現  
(1)-1 ロボットなど、省人・省力化生産設備の積極投入、製造現場のIoT推進による製造現場の革新

## 【設備投資額推移】

2018年～2019年3月期に大幅設備増強、2022年3月期は自動加工設備等増設

### 固定資産取得額(連結)

(単位：百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期
有形固定資産	1,227	1,086	593	485	662
無形固定資産	83	213	111	105	226
取得額合計	1,311	1,300	705	591	888

# 重点施策進捗状況（1）－2

## (1)ダントツの品質・ダントツのスピード・ダントツのサービス・納得の価格の実現

### (1)-2「白銅ネットサービス」の更なる利便性の向上

- ・ 品目サイズを大幅拡充し、32,700品目サイズがご利用可能
- ・ 工具、ネジ等材料以外の取り扱いも大幅に増加中
- ・ 引き続き見積りの白銅ネットサービス利用率90%を目指す



当社標準在庫品約5,400点+提携仕入先在庫品約27,300点、合計約32,700点が24時間365日お見積り・ご注文可能



在庫状況、お届け日、注文状況、宅配便利用の場合は送り状番号が確認可能

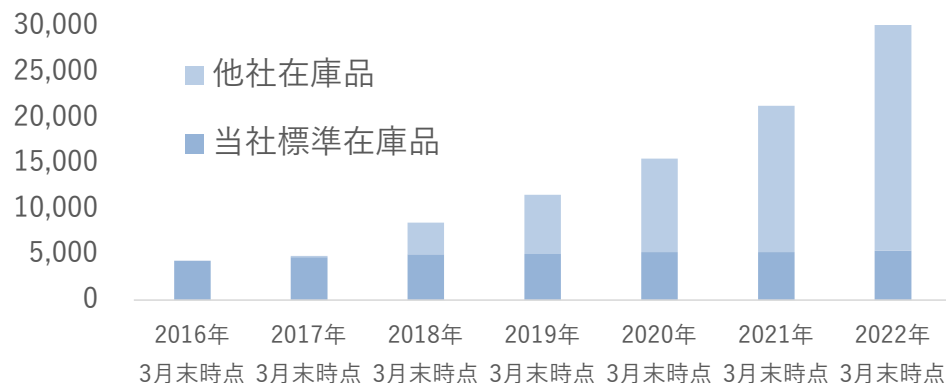


請求書、納品書はもちろん、ミルシート(検査成績表)も発行可能

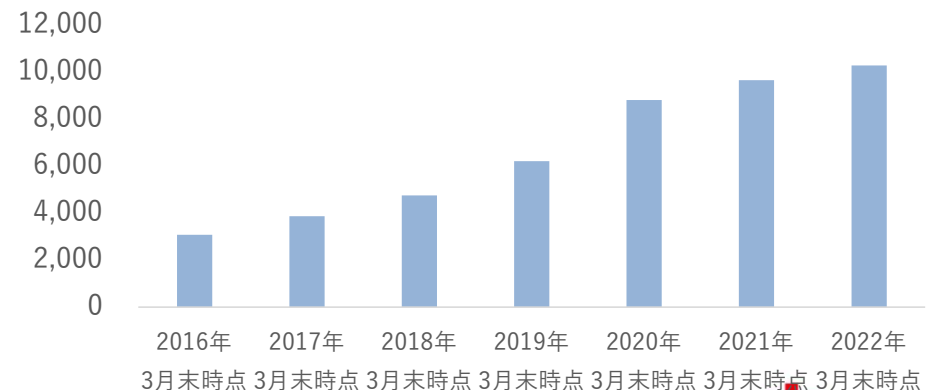


工具、副資材等、材料以外の取り扱いを増加、約13,000アイテムがご利用可能

【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



# 重点施策進捗状況（2）

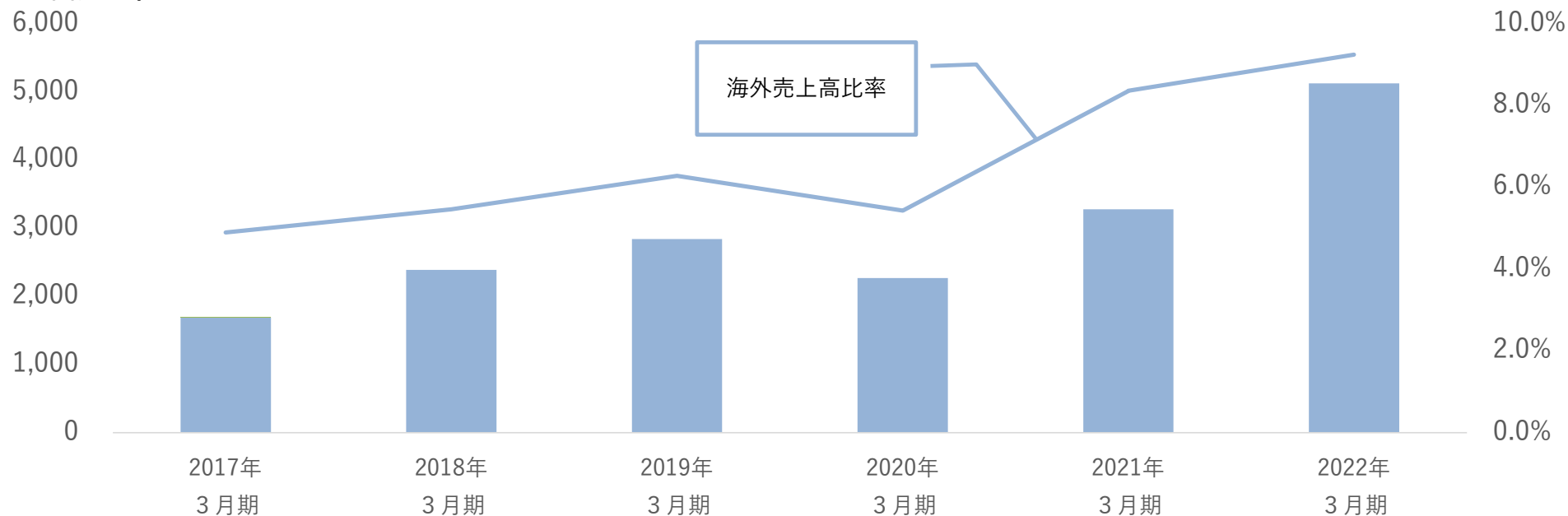
## (2) 海外事業の拡大

- ◆ 海外子会社の売上高および利益の増大を目指し、海外売上高比率は増加中
- ◆ 2020年6月に出資を完了したベトナム大手非鉄金属商社であるオリスター社との協業体制の構築中（ECの導入等）
- ◆ 海外での非鉄・ステンレスのオーダーメイドプレート販売網の確立
- ◆ 海外代理店との連携強化と新規進出国（米国・韓国等）の検討を開始し、一部交渉中
- ◆ 海外でのWeb販売の強化を目指しECパッケージソフトを開発中

白銅グループ全体に占める海外事業の売上高10%以上を目指す

### 【海外事業の売上高と海外売上高比率の推移】

(単位 百万円)



※日本から海外子会社以外への輸出売上高と海外子会社の売上高の合計金額

# 重点施策進捗状況（3）

## (3) 新規事業の育成

### (3)-1 3Dプリンターによる金属製品の受託製造

- ・アルミダイカスト合金「ADC12」の造形サービスの販売強化
- ・アルミニウム、特殊鋼、ステンレス鋼、チタン、ニッケルなど多彩な鋼種の造形が可能
- ・3D造形に関するトータルソリューション「3D+ONE」
- ・検査設備増強による検査体制の強化
- ・3Dプリンターの相乗効果を狙った金型・自動車業界への拡販



画像提供：3D Systems Corporation

### (3)-2 航空宇宙規格材料のコンビニエンスディーラーを目指す

- ・航空宇宙規格材料シリーズ商品ラインナップも増加中、現状130アイテム以上の品揃え
- ・2台目のウォータージェット加工機を導入予定

業界最大級の  
豊富な在庫ラインアップ

航空機の構造材、各種の装備品や人工衛星部品などに使用される材料を豊富なサイズラインアップで品揃え

規格に合致した品質確保

JIS Q 9100(航空宇宙)を取得  
神奈川工場・滋賀工場

海外からの輸入にも対応

海外との幅広いネットワークを使って、輸入にも迅速に対応いたします。

# 重点施策進捗状況（4）

## (4) ESG/SDGsの取組み

### サステナビリティ基本方針






















当社グループは、企業理念に掲げる経営理念の基にESG及びSDGsなどを考慮したサステナビリティ経営の推進が必要不可欠であると認識し、以下に掲げる事項を意識して事業活動を行うことで、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けた貢献とを両立させてまいります。

1. ESG・SDGsなどを考慮したサステナビリティ経営についての理解を深め、事業を通じた環境や社会への貢献に取り組みます。
2. 地球環境や自然への配慮と地球温暖化防止、循環型社会の形成に努めます。
3. 従業員の健康増進を図るとともに、多様な人財の育成や採用および働き方などを実現します。
4. 当社グループの健全性・効率性・透明性などの向上を図り、各種リスクを低減します。
5. 当社グループの事業にかかわるステークホルダーとの関係強化に努めます。
6. 誰もが安心して生活できる社会の実現に向けた取り組みを行います。

# 重点施策進捗状況（4）

## (4) ESG/SDGsの取組み

### ESG/SDGs経営委員会を設置、各分科会でマテリアリティに対する取り組み実施

マテリアリティ（重要課題）		具体的な取り組み	関連するSDGs目標
1. 環境負荷軽減・気候変動対応	事業上の環境負荷を軽減するとともに、環境に配慮した製品を通じて社会に貢献します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出の削減</li> <li>● 資源の節約・枯渇抑制</li> </ul>	     
2. 責任あるサプライチェーンの構築	サステナブルなサプライチェーンの構築に責任をもって取り組みます	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮製品の強化</li> <li>● グリーン調達の促進</li> <li>● サプライヤーとの関係強化</li> <li>● 人権の尊重</li> </ul>	  
3. 社会への取組み	パートナーシップの取組みを推進し、新しい価値の創造や地域社会への貢献を目指します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域社会への貢献</li> <li>● 産学協働</li> </ul>	  
4. 人材への投資	多様な人材が働きやすい組織を目指し、高い従業員満足度を実現します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員満足度の向上</li> <li>● ダイバーシティの促進</li> <li>● 健康で働きやすい環境の整備</li> <li>● 社員教育の拡充</li> </ul>	    
5. コーポレート・ガバナンス	コンプライアンスやリスク管理を徹底し、円滑な事業運営に寄与します	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンスの強化</li> <li>● 情報セキュリティの強化</li> <li>● リスク・危機管理の徹底</li> </ul>	   

---

ご清聴ありがとうございました。

■本資料における注意事項

この資料には、2022年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

白銅株式会社 経営企画本部長 關濱 亮  
メールアドレス：001002@hakudo.co.jp  
ホームページ www.hakudo.co.jp